

広報 UNOYAMA

第 46 号

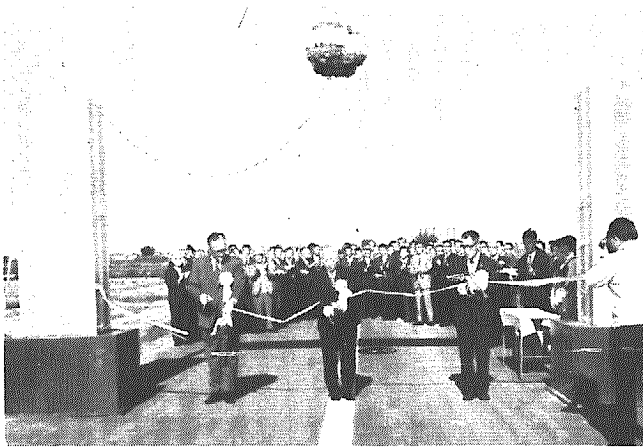
発行所 黒埼町役場
印刷所 共立印刷廠

〈町の動き〉

9月末日現在	
人口	17,962
男	8,806
女	9,156
世帯数	4,211
8月1日～9月末日まで	
出生	6
死亡	24
婚姻	10

第2号線はほぼ完成

知事らがテープカット

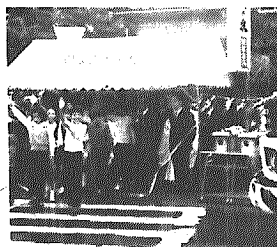


テープカットをする
左から鷲尾氏、巨知事、米沢氏

十月一日、午後二時より、本町町営グラウンドにおいて、広域営農団地農道整備事業の着工式が県知事をはじめ、本県出身の衆参両議員など多数の来賓、関係者三五百人を迎えて盛大に挙行された。

この事業は、国の施策で新潟、燕、西蒲原郡の二市五町六カ村により、都市近郊農村と純農村であつて米を基幹として、良質米高性能生産団地を育成するとともに生鮮食料供給基地としての役割を果たすために野菜、果実、花き、畜産物の生産団地化を図ろうとするもので、このため本地区のほぼ中央に本地区を一広域営農団地として運営するコントロールセンターを設け各一ヶ所に地域センターを設置し各々基幹農道と相互連絡し運営の一体を期するとともに高速自動車道インテグレーションと接続して流通の迅速化に対処させる。又、米の大規模処理施設として、各市町村にコントロールエレベーター（米貯蔵庫）並びにライスセンターを設けるとともに、六〇ヘクタール単位の生産集団を組織して、生産の大規模機械化と処理流通の大規模化、組織化を図り、これら末端の生産機構から、コントロールセンターまで広域営農団地農道網を整備しようとして策定されたもので、本町においては、第二号線、本町木場から新潟市中権寺までの約八キロは全線舗装を完了し、ガードレールを残すのみとなっている。△第一号線（小新、北場、黒鳥、木場）の五、七、七五は黒鳥、北場間の土盛りを終えている。

当日は花火の合図と同時に巨新湯原知事、米沢日本道路公団東京建設局長、鷲尾広域農道整備事業推進協議会長等がテープカット、このあと、第二号線をバトカーを先頭に数十台の乗用車、バスが連なつて中権寺までパレードをした。



黒鳥 ダンブ道路に信号機 児童が渡りぞめ

交通量の激しい、新潟亀田内野線が町道と交差する、黒鳥の阿部酒屋前に信号機が設置された。去る九月二十二日、新潟西警察署長をはじめ町長、部落関係者など三十人が参席して点灯式が行われ、交通安全を祈願して、お祝いを受けた。ここは県道と町道が交

差しゆるくカーブをして、る所でダンブ道路といわれる程、ダンブの交通量が激しく、黒鳥小児童にとつて登下校は至難であつた。このたび部落住民の願いが実を結び関係者の喜びもひとしお、点灯後六年生児童が渡りぞめを行い式は終了した。

この信号機はボタン式信号機で、ボタンを押してから二十秒程で青になります。青の時間が二十秒、青になつたからといって、左右の確認を怠らないように。